

雑誌と新聞の役割の違い、新聞を手段とする煽動について

われわれがさきにあげた主題や問題を、雑誌と新聞とにどう配分するかについていえば、この配分はもっぱらこれらの出版物の大きさの違いと、さらにその性格の違い——すなわち、雑誌は主として宣伝に役だたなければならず、新聞は主として煽動に役だたなければならないという、——によってのみ、決定されるであろう。しかし、雑誌でも新聞でも、運動のあらゆる側面を反映させることが必要である。そして、労働者新聞の紙面には、もっぱら自然発生的な労働運動に直接に、密接に触れる事がらだけをのせ、社会主義理論や、科学や、政治や、党組織の諸問題などの分野にかんする事がらは、いっさいインテリゲンツィアのための機関誌にゆずるといような計画にたいしては、われわれは否定的態度をとっていることを、とくに強調したい。反対に、労働運動のいっさいの具体的事実と現われを、ここにしめした諸問題と結合することが必要であり、一つ一つの部分的事実を理論によって解明することが必要であり、政治と党組織の諸問題を労働者階級のもっとも広範な大衆のあいだに宣伝することが必要であり、これらの問題を煽動のうちにもちこむことが必要である。こんにちまでわれわれのあいだでほとんどただ一つ支配的に行われてきた煽動の形態——まさに地方的リーフレットを手段とする煽動——では、不十分になろうとしている。このような煽動は、ただ地方的な問題、しかも主として経済的な問題だけにしか触れないので、狭隘である。いっそう高度の煽動形態をつくりだすよう試みなければならない。それは、労働者の苦情をも、労働者のストライキをも、プロレタリア闘争のその他の諸形態をも、ロシアの全土にわたる政治的圧制のいっさいの現われをも、定期的に記録し、このような一つ一つの事実から、社会主義の終局目標とロシア・プロレタリアートの政治的任務とに適合した一定の結論を引きだす、新聞を手段とする煽動である。「われわれの宣伝・煽動活動と組織活動の枠をひろげ、内容を拡張せよ。」『ロシア社会民主主義者の今日の任務と戦術の問題によせて』——このペ・ベ・アクセリロードの言葉は、ま近い将来におけるロシア社会民主主義者の活動を規定するスローガンとして役だたなければならない。そこで、われわれは、このスローガンを自分たちの機関紙誌の綱領に取り入れる。……

そしてわれわれは、すべてのロシアの同志たちがわれわれの出版物を自分自身の機関紙誌と見なし、あらゆるグループが運動にかんするいっさいの情報をそれに通報し、また自分たちの見解、文書にたいする自分たちの要望、自分たちの経験、社会民主主義的出版物にたいする自分たちの評価一口にいえば、各グループが運動にもたらすすべてのもの、また運動から引きだすすべてのものをこの機関紙誌とともにわかちあうようにならせることを目標として、努力する。ただこのような条件のもとでのみ、真に全国的な社会民主主義的機関紙誌の創設が可能になるであろう。……

1900年春に執筆

第四卷『イスクラ』および『ザリヤー』編集局の声明草案 P353~358

1925年に『レーニンスキー・ズボールニク』第四卷にはじめて発表

未詳の人の手で清書された手稿によって印刷

コメント

雑誌でも新聞でも、運動のあらゆる側面を反映させることが必要である。労働運動のいっさいの具体的事実と現われを、社会主義理論や、科学や、政治や、党組織の諸問題と結合することが必要であり、一つ一つの部分的事実を理論によって解明することが必要であり、政治と党組織の諸問題を労働者階級のもっとも広範な大衆のあいだに宣伝することが必要であり、これらの問題を煽動のうちにもちこむことが必要である。つまり、新聞を手段とする煽動は、一つ一つの事実から、社会主義の終局目標とプロレタリアートの政治的任務とに適合し、一定の結論を引きだすものでなければならない。そして、機関紙には、あらゆるグループの運動にかんする情報があつめられ、自分たちの見解や全体の運動に対する評価が表明され、党全体の運動が集約され、党員にとって自分自身の機関紙となるような編集に努めなければならない。